第２７回　松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜　ターゲット型　消防団員として活動されているみなさまと　＞

対話録概要

と　　き	令和８年８月 30 日（日）　　午後２時から午後４時まで
と こ ろ	尼崎市防災センター　３階　多目的ホール
出 席 者	参加者　15 人、市長ほか関係者　５人　　計 20 人
トークテーマ	将来の災害への備えとして、消防団における消防力をどのように維持・増進するか

【市長のあいさつ】

兵庫県内及び大阪府の中核市と比較しても、人口に対する消防団員の割合は決して劣ってはいないものの、尼崎市の消防団員の数が減少傾向であることは事実である。共働き世帯の増加や高齢者の就業率の高まりなどもあって、団員の確保は難しい時代となっていることについては認識している。また建物の耐火性の向上等により火災の件数は減少傾向にあるが、大災害が発生し、市内で同時多発的に火災が起こったことなどを想定すると、消防局だけでは対応できない可能性も考えられる。

こうした状況も踏まえ、本日は、消防団員として活動している皆さんと、今後の消防団における消防力をどのように維持・増進していくかなどについて率直に意見交換が出来ればと思っている。

【意見交換】

〈参加者〉阪神淡路大震災が発生してから今年で31年目を迎える。震災を経験した消防団員が各分団にいる間に、当時の活動や経験などを若い団員に伝えていく責務があると感じている。また消防団は平時から放水をはじめ様々な訓練をしているが、訓練の回数が減ってきている。ただ、訓練を通して例えばホースが破損していることに気づくことなどもあり、資機材の点検も兼ねて消火活動などの訓練をしていきたいと思っている。

〈市長〉ポンプ操法大会など、大きな催しは自身も見させてもらったことはあるが、平時の訓練の様子はこれまであまり見る機会がなかったため、このような実情や想いなど何でも構わないので発言してもらえたと思う。

〈参加者〉昔は祖父母、父母、子の三世代が同じ家で暮らすケースが多かったが、今では核家族が多い。核家族世帯では子どもの面倒を見ないといけないこともあり、こうした家族の形の変化も団員減少の要因になっていると感じる。市には例えば、そうした家庭でも消防団活動が出来るよう子どもの預かりなど福祉面でのサポートをしてもらえたらと思う。

〈市長〉重要な視点である。分団としての活動に毎回全員が参加しないといけないのかなど各団の雰囲気や実情はそれぞれあるかもしれないが、子がいることによって入団あるいは活動への参加が難しくなるのはよく理解できる。

〈参加者〉自身は分団に所属する大学生である。阪急武庫之荘駅前で目の前で人が倒れた場面に居合わせ、応急手当のことなどについて興味を持ったことがきっかけで現在、消防団員として活動している。大学

生年代は消防団という組織を知らない人がとても多い。知人等にアンケートを実施してみたところ、仮に消防団のことを知っていて活動に感謝する人が居たとしても、入団はしたくないと答える人が多く、人間関係のしがらみなどマイナスイメージが定着してしまっていると感じた。ただ、こうした中にあっても、防災の分野に興味を持つ学生は多く、例えば防災を起点に緩やかな関係性を構築し、その後、消防についても関連付けていくことで消防団の認知度向上や魅力を感じてもらい、ひいては入団につながっていくような好循環が生まれれば良いと感じている。

〈市長〉 大学などで学んだ知識や技術を地域社会での社会貢献活動に活かし、その体験を振り返ることで学びを深める教育方法（サービスラーニング）がある中で、例えば大学と市が協定を結び、防災などを学ぶ学生が消防団活動に参画することで、学校の単位が取得できるような仕組みは作れるかもしれない。

〈参加者〉今年の３月に京都府南丹市で起きた殺人事件の際にも、延べ千人規模の消防団が山中を捜索したことをメディアが報じていた。こうした団の活動は素晴らしいものである一方で、「地主の集まり」、「飲み会などの付き合いが多い」など過去からのマイナスイメージは払拭できていないと感じる。

〈参加者〉過去の尼崎市の消防団は地域外在住者の入団を断っていたが、今では地域外在住者の団の所属も可とするなど、慣習に捉われず運用を改善してきている。また、制服もリニューアルされたことにより活動へのモチベーションが上がった。

〈参加者〉消防団に入団することで、新たな人脈ができる。その人脈が本業にも活かせられるケースもあるため、そのような魅力も発信していければと思う。

〈参加者〉人脈ができることによるメリットの話が挙がったが、新たに何かしらの優遇措置を受けられるようにするなどもっとメリットを感じられるような仕組みがあればと思う。自分たち団員にも家族がいる中で活動をしているため、配偶者や子どもからの理解を得るためにもインセンティブがあればと思うし、新たな団員確保にもつながる。また、消防団の活動は地域貢献というイメージが先行すると思うが、活動に対して対価を貰える点をしっかりと伝えることで入団を検討してくれるケースもあるかもしれない。

〈参加者〉総務省消防庁が示した基準により、令和４年４月以降、団員の活動報酬は団員個人に支払われることになった。それまでは団の口座に支払われていた。こうした厳格な報酬等の基準は活動の対価としての透明性を確保するものであるが、団として親睦を深めるための行事に係る費用は例えば分団長個人の支出となるなど、上の階級に位置するものの支出が多くなっており、報酬の増額等処遇の改善をしてもらいたい。

〈参加者〉消防職員の採用試験の際、消防団として活動していた実績があれば加点するような仕組みを設けてはどうか。また、尼崎市消防局職員の消防団員の兼務は認められていないが、消防局職員が団にいれば相当心強いため、兼務を認めて欲しい。

〈市長〉採用試験の際の加点等制度は現在のところないが、そうしたインセンティブを付与する仕組みがあれば入団希望者が増えるかもしれない。

〈参加者〉近年、若年層を中心に運転免許取得率が減少している。消防団の活動では車両を運転するため、普通免許又は準中型免許が必要となるが、こうした近年の動きは消防団にとっては良くない傾向である。

〈市長〉車両や資機材に関する課題についても思うことがあれば聞かせてもらいたい。

〈参加者〉大規模災害が発生した際は火災に係る消火活動のみならず救助活動も必要になってくると思っている。そのため、今後、救助用の資機材の導入、避難誘導や救助・救出活動に係る訓練の充実を図る必要があると感じている。また先日、千葉県で記録的豪雨が発生したが、あのような災害が発生したときに消防団が活動することで地域のためにもなるし、魅力向上にもつながると思う。

〈市長〉千葉豪雨では１時間当たり約110ミリの猛烈な雨が降ったと報道された。千葉市では１時間当たり約53ミリ想定の下水施設能力を基本として整備されているが、その能力を圧倒的に超えた、いわゆる「内水氾濫」となった。尼崎市においては１時間あたり51.7ミリを想定した下水道施設能力の確保に向けて順次整備を進めているが仮に同規模の豪雨が発生した際は、到底処理しきれない。そうしたときには避難誘導等お願いしたい。

〈参加者〉災害時における高齢者等の要配慮者支援を意識した訓練をしていきたい。また、要配慮者支援に関しては社会福祉協議会や自治会との連携を意識して取り組む必要がある。ただし、行政が作成する災害時要支援者名簿は個人情報であるため、当事者を把握することなどには一定のハードルがあるのではないかと感じている。

〈参加者〉ポンプ操法大会を多くの方に見てもらえるような形で開催できればと思う。消防団員としても緊張感を持ちながら取り組むことができるし、年齢や性別に関わらず多くの方に消防団の魅力を伝える良い機会になると思う。

〈市長〉良いと思う。ポンプ操法大会に関しては毎回、武庫地区のみが出場できていないことを残念に思っている。その他５地区が切磋琢磨しながら、一連の行動や技術を競う中で、やはり市内の全６地区が参加する大会にしたい。団員が減少し、本業もありながら大会に向けて練習することは大変であると思うが、各地区とも地区内の調整や工夫をし、また勝つことよりも参加することを重視している地区もあるため、全地区参加による大会実施を強く望む。

〈参加者〉近年、女性の団員入団もあり嬉しく思っているが、女性用トイレが器具庫内にない分団もある。今後、器具庫を更新する際には女性にも配慮した設えにしてもらいたい。

【おわりに】

すぐに皆さんの活動環境が改善されるわけではないが、本日の議論も踏まえ今後の政策を考えていきたい。これからも車座集会以外の機会であっても皆さんと意見交換などが出来ればと思う。

以　上